

龍谷大学 学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University Learning Support · Educational Development Center Report

2015
01



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

学修支援・教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日: 2015年10月 編集・発行: 龍谷大学 学修支援・教育開発センター



コラボレーションエリア

■4月～7月の 深草スチューデントコモンズの様子

可動式のホワイトボードを上手く活用したり、壁をスクリーンに見立ててパワーポイントを投影したり、工夫しながら利用されています。アクティビティホールではゼミ発表もしばしば行われています。



クリエイティブエリア



アクティビティホール

2015, Number 01

CONTENTS

p3

龍谷大学ラーニングコモンズ ～瀬田コモンズ～の開設について

p4

コモンズチューター始動！

～コモンズチューター（大学院生）によるライティング支援が始まりました！～

p6

九学部合同学生会主催 第1回学生FDサロン

「真剣龍大しゃべり場～^{あなた}大学生は勉強してますか？～」開催報告

p8

manaba course を活用しよう

～出席・リアルタイムアンケート機能～

p10

新着図書の紹介

p12

2015年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会一覧
2016年度自己応募研究プロジェクト 募集のお知らせ

New

龍谷大学ラーニングコモンズ ～瀬田コモンズ～の開設について

2015年4月、深草キャンパス和顔館にオープンした龍谷大学ラーニングコモンズですが、9月に同様の機能を持つラーニングコモンズが、瀬田キャンパス智光館及び瀬田図書館にオープンしました。智光館2階がグローバルコモンズ、地下1階にスチューデントコモンズ、そして図書館へと続き、図書館地下1階がナレッジコモンズとなっています。これまで瀬田キャンパスで展開していたライティングセンター、イングリッシュラウンジ、理工学部初年次学習支援センター等における支援内容も加わり、より充実した総合的な学修支援が実現できるよう、工夫されています。また、図書館前にはシアトルズベストコーヒーが新たにオープンしました。コーヒーを飲みながら、瀬田コモンズでゼミ課題の話合いやプレゼンの練習が可能です※。



瀬田コモンズのオープンを記念し、9月18日に瀬田コモンズ・Cafe オープニングセレモニーが開催されました。学生代表として九学部合同学生会代表の久保さん、理工学部学生代表の太田さん、社会学部学生代表の樋口さん、農学部学生代表の道山さんが出席しました。みなさん、コモンズをたくさん活用してくださいね！



今後は深草、瀬田の両キャンパスのラーニングコモンズをもって、龍谷大学ラーニングコモンズとして学修支援の場を提供していきます。

※) 飲食に関して、エリアによって禁止されているところもあります。詳細は龍谷大学ラーニングコモンズHP内「利用マナー (<http://www.ryukoku.ac.jp/learningcommons/manners.html>)」にてご確認ください。

龍谷大学ラーニングコモンズ(深草コモンズ)で コモンズチューター(大学院生)によるライ

2015年4月末より、深草コモンズの3コモンズ(スチューデントコモンズ、グローバルコモンズ、ナレッジコモンズ)において、コモンズチューター(大学院生)によるライティング支援が始まりました。

レポート課題が出されたが、「どのような形式で書いたら良いかわからない…」、「自分の主張をどのように書いたら読み手にわかりやすいレポートになるのかかわからない」…等、多くの学部生が抱えるレポート課題等の悩みについて、コモンズチューターが相談に応じています。コモンズチューターによる支援は、教員に代わって指導を行うものではなく、あくまでも相談内容に応じたアドバイスを通じて相談者自身に「気づき」を与えることを目的としています。

前期の総利用者数は186人(延べ)で、主に1、2回生を中心とした利用となっており、2回3回と継続して訪問する学生も増えてきています。コモンズチューターは基本的なレポートの書き方(テーマ設定、章立て、構成「序論・本論・結論」、引用等)や、発表時のレジюме等、文章表現に関する質問全般に応じています。そのため、大学院生の所属研究科によらず、全ての学部生が利用可能です。後期も多くの利用をお待ちしています。担当授業でレポート課題を出される際は、受講学生へコモンズチューターの利用を呼びかけてみてください。

チューターを利用した学部生の意見

- 大学に入って初めてのレポート課題に戸惑ったが、書式から丁寧に教えてくださり、少しだけレポート課題に対する自信が出た。(1回生)
- 具体的にレポートを作成できるよう教えてもらった。とても分かりやすく、より良いレポートができそうです。(1回生)
- 分かりやすく、疑問に思ったことに対する適格な解答を与えてくださったので、とても満足できました。(1回生)
- 具体的にレポートをどうまとめたらいいいのか把握できました。もう少し調べて、まとめてみます。ありがとうございました。(1回生)
- レポートのテーマが見つからなくて困っていたがテーマも決めることができ、効果についてもアドバイスしてもらえたので、レポートが書けそうです。ありがとうございました。(3回生)

コモンズチューターのシフトは月初めに学修支援・教育開発センター Newsとしてお知らせいたします。その他、学修支援・教育開発センターホームページ「最新情報」(<http://fd.ryukoku.ac.jp/>)や、ラーニングコモンズホームページ「最新情報」(<http://www.ryukoku.ac.jp/learningcommons/index.php>)でも確認することができます。



ティング支援が始まりました！

コモンズチューター

研修風景



学部生の相談内容に応じ、適切な学修支援（ライティング支援等）を行うことができるよう、定期的に研修やミーティングを実施しています。これまで、コモンズチューターのスキルアップを目的とした研修（ライティング支援研修・コミュニケーション研修）や、課題の共有・分析に基づく支援内容の改善・充実を目的としたコモンズチューターミーティングを前期6回行いました。

	日 程	内 容
1	2015年 4月3日(金)	学生のレポート・論文相談に対応するためのライティング支援法についての研修 ・レポート作成の際に学生が抱える悩みを把握する ・学生からの相談への対応の仕方 ・レポート作成（書く・読む）時の留意点 ・レポートのチェックポイント
2	2015年 4月6日(月)	コミュニケーション研修 ・ティーチングとコーチングの違いについて ・相談者へのヒアリングやフィードバックについて ・相談しやすい場作りについて
3	2015年 5月18日(月)	ライティング支援開始からの学生相談対応について ・実際に対応してみたの感想や反省を共有
4	2015年 5月29日(金)	①5月末までの学生相談対応について ・チューター間の支援内容の差を埋めるための検討 →チェックシートの作成を提案 ・1セッションの対応時間について ②学内の広報活動について
5	2015年 7月3日(金)	①ライティング支援利用者数について ②レポートの書き方チェックシートの作成について ・支援の際のポイント整理や、チューター間の対応に差がでないようにするため、チューターで意見を出し合い、作成。 →7月中旬から活用
6	2015年 7月31日(金)	①ライティング支援利用者数について ②レポートの書き方チェックシートの使い勝手について ・改善提案→後期より改善 ③2015年度後期（9月～1月）に向けた課題等について

コモンズチューターミーティングでは、定期的に利用者数や利用者アンケート等のデータを把握・分析し、「実際に支援をしてどうだったか」、「こうしたらもっと質の高い支援、円滑な運営ができるのではないか」、といった意見交換や改善提案等、活発な議論が行われています。コモンズチューターは、現在3コモンズのどこでも共通したライティング支援を受けられることを基本要件としており、今後はそれに付加する形で各コモンズの特性に応じた支援を展開できるよう検討を進めています。

九学部合同学生会主催 第1回学生FDサロン

「真剣龍大しゃべり場」

～^あな^なた^たは勉強してますか？～

開催報告

学生の正課環境の改善・向上を目的に活動を行う九学部合同学生会とセンターとの連携も、今年で3年目を迎えました。今年は自身らの活動を深めるため、毎年開催している学生FDサロンを年2回開催することに決めました。九学部合同学生会が中心となり、早くから企画・立案し、7月16日（木）に和顔館スチューデントコモンズにて開催しました。

今回の学生FDサロンでは、「^あな^なた^たは勉強していますか？」

というテーマを設定し、大学生の学修時間の低下が叫ばれる中、学生、教員、職員の立場から、「大学生は本当に勉強していないのか?」「大学生の学びとは何か」について6グループにわかれ、各々が考える大学生の勉強について話合われました。

最後はアクティビティホールに集合し、ホワイトボードにまとめられた各グループの意見を全体で共有しました。



九学部合同学生会
代表
経営学部 4回生
久保 拓洋さん



初めまして、九学部合同学生会代表の久保といいます。九学部合同学生会は正課（授業）の向上を目指して活動しています。今回は九学部合同学生会主催の学生FDサロン「真剣龍大しゃべり場～^あな^なた^たは勉強してますか？～」を開催しました。開催日に台風が重なってしまうという悪天候で、開催できるか不安でしたが無事開催することができました。

大学生が世間からは勉強していないとみられているということで「～^あな^なた^たは勉強してますか？～」をテーマに開催しました。学生の私たちからすれば、授業はもちろんのこと、課外活動やバイトやインターンシップなど、いろいろな場面で勉強しているつもりです。正直、教職員の方からはそんなことよりも、第一に授業を大切にしろという意見ばかりが出るものだと思っていました。ですが、授業以外のことに肯定的な意見をいただくことができました。逆に、こういったことにも目を向けてみてはどうかというアドバイスもいただきました。学生と教職員ということで立場が違うからこそたくさんの意見があり、それを共有することによって新しく視野を広げることが出来たと感じています。後期のFDサロンではさらに多くの方に参加してもらうことで、より効果のあるものになりたいです。

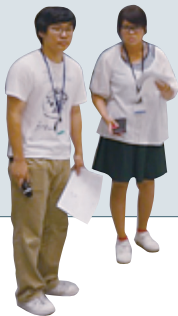


九学部合同学生会
副代表
社会学部 4回生
樋口 菜奈さん

私は、今回初めて学生FDサロンに参加させていただきました。初めてということと、台風による悪天候ということもあり、どうなるか不安ではありましたが無事開催することが出来て良かったです。

今回、学生と教職員の方に参加をしていただき、「あなた大学生は勉強してますか？」というテーマのもとディスカッションを行いました。このディスカッションでは、明確な1つの結論を設けるのではなく、ディスカッションに参加していただき、その中で議論したことを共有するということを大切に行いました。そうすることにより、さまざまな意見が飛び交い、自分の考えとは違う意見を聞くことで、新しいことを得ることが出来たように思います。

また、今回の学生FDサロンを通して、普段はあまり話し合うことのない他学部・他学年の学生や教職員の方と議論をしたことで、正課環境に対して関心をもっていただけたかと思います。今年度は、前期・後期と2回開催するという計画を立てました。このように、回数を重ねていくことで、より多くの人に学生FDサロンを知ってもらい参加をしていただきたいと思います。そして、正課環境の向上につなげたいと思います。また、私自身も機会があれば今後も参加していきたいと思っています。



参加した学生・教職員の意見

- 他学部の学生の意見、考え方を知ることができた。
- 学生の勉強の意味、意義を今一度考える場が得られたのはよかった。
- 勉強とは何かについての考えを教職員の方から聞いたので、参加してよかった。
- 学生の意見だけでなく教授（先生）や職員の方々の意見を聞くことができ、自分がどのように行動していけば良いか考えやすくなった。
- …等々

九学部合同学生会のみなさん、おつかれさまでした！後期に開催予定の第2回学生FDサロンも期待しています！

出席・リアルタイムアンケート機能について

2015年度より全学的に導入された教育支援システム「manaba course」。manaba courseは授業の事前、事後、授業中における学びを支援するためのシステムであり、講義やゼミ等、様々な授業形態で活用が期待できます。manaba courseは小テストの設定・採点や、授業中のレジュメやパワーポイントをmanaba course上から学生に配信、レポート課題の設定・回収・採点等が簡単な操作で設定できます。また、これらの操作はパソコンからだけでなく、スマートフォンや従来型携帯電話（ガラケー）からも可能です。

学修支援・教育開発センターでは、manaba courseを多くの先生方に活用いただき、日々の教育活動に役立てていただくため、manaba courseの活用方法・活用事例について紹介していきます。第一回目の今回は「出席・リアルタイムアンケート機能」を紹介するとともに、実際に出席・リアルタイムアンケートを活用している経済学部 神谷祐介先生にお話を伺いました。

出席・リアルタイムアンケート機能とは？

出席・リアルタイムアンケート機能は、授業中に使用することを念頭においた機能です。**出席をとること**の他、**アンケート**を設定し、**リアルタイムで集計・結果開示**することが可能です。

授業中にスクリーンで提出状況画面を表示させておけば、提出内容がリアルタイムに集計されていくため、他の学生がどんな回答をしているのか確認でき、授業への参加感が高まります。

○マニュアル設置場所

ポータルサイト「お知らせ」>2015-04-01 manaba course コースリンク機能・出席機能のマニュアルについて

※manaba course内**に出席・リアルタイムアンケートに関するマニュアルを設置していません**。ご注意ください。

☆その他manaba courseの利用については、簡易マニュアルを用意しています。マニュアルはmanaba courseへログインの後、マイページ下部の「マニュアル」からダウンロード可能です。



マイページ



ダウンロードページ

出席・リアルタイムアンケート機能の設定方法

①出席カードの発行 ～授業開始前の準備～

manaba courseにログインの上、出席・アンケートを実施したいコース(授業)から「出席カード」を発行します。出席カードは7桁の受付番号となっています。この番号は学生に出席・アンケート等を提出させる際に必要な番号です。

発行の際、3種類のカードタイプ（出席・クエスチョン・アンケート）を選ぶことができます。

☆クエスチョンやアンケートの場合、質問と選択肢を出席カード発行の際に作成します。

②出席・アンケート実施 ～授業中～

学生に発行した出席カードの受付番号を案内し、出席・ア

ンケートの受付を開始します。学生は各自manaba courseにログインし、提出します。

☆提出させた出席やアンケートは受付終了後、Excelデータとしてダウンロードすることが可能です。

☆受付時間は「出席情報編集」から設定することができます。指定した時間までに提出している学生を一括で「出（出席）」とすることができます。その他、個別に設定する場合は、出欠欄から「出扱（出席扱い）」「早遅（早退/遅刻）」を選択できます。メモ欄もあるため、理由等も記録しやすくなっています。

※詳細はマニュアルをご確認下さい。

神谷先生は、2015年度自己応募研究プロジェクト「Audience Response Systemを活用した主体的学習授業の実践とその評価：実験・行動経済学を用いた検証」というテーマでプロジェクトをすすめていただいています。



経済学部
神谷 祐介先生

■主に利用した講義

1年生対象（入門演習）…………… 21人

2年生対象（基礎演習Ⅱ「国際協力をつくろう！」）… 61人

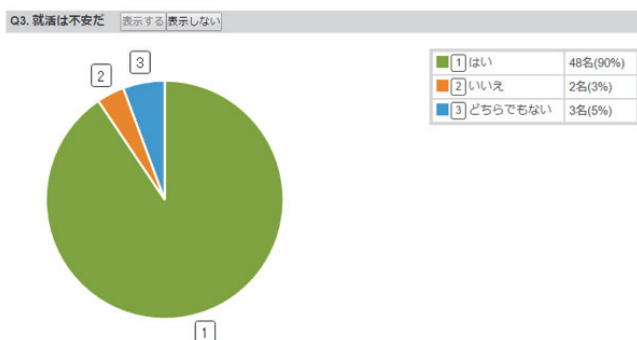
3年生対象（演習Ⅰ「国際協力活動と評価」）…………… 19人

出席・リアルタイムアンケート機能を利用して…

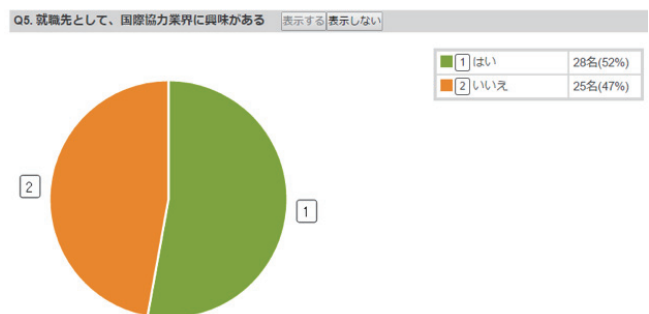
主に、「出席アンケート」機能を、出欠確認、アンケートのリアルタイム集計、アイデア出し（ブレインストーミング）に活用しました。どのゼミでも受講生全員がスマホを持っていたため、manaba courseは割とスムーズに導入できました。

出欠確認では、一人ひとり出席をとる手間が省けて便利でした。特に60人規模のゼミではその効果は大きかったです。ただし、学生も慣れてくると、大きい教室ではバレないと思い、出席のための「受付番号」を、欠席している友人にLINEやメールで教え合うという学生もほんの若干ですが出てくるので、注意と工夫が必要だと感じました。

リアルタイム集計では、「単一選択」の質問に対する自分たちの回答が、その場で瞬時に集計されるのは、特に最初は新鮮であったようです。特に、自分と他者の回答を比べたり、学生間の回答は匿名であるので、正直な回答や奇想天外な回答をしてもよいという感覚を体得できたと思います。教員側にとっても、集計結果をゼミでの中の活動や話にすぐに活かすことができるので、ゼミを盛り上げやすいと思いました。ただ、リアルタイム集計も慣れてくるとマンネリ化するので、アンケートの質問にひねりやスパイスを利かせることが重要になってきます。その他、口頭ではなかなか話にくい就活や将来の夢といった内容についても、学生の本音も聞けることもメリットに感じました（下図参照）。



アイデア出しは、アンケート機能の「自由回答」を用いて行いました。スマホは馴染んでいる子も多く、人によっては紙に書くよりも率直な意見が出しやすいようです。アイデアを出した後に、アイデアをグルーピングして、グループ分けに用いました。私のゼミでは基本的に学生が自分たちのやりたいことを自分で考えて取り組んでみるというスタイルなので、この機能は便利でした（下図参照）。



学生が「今、何を考えているか?」、その時に持っている「感覚」、将来の夢、現在の行動の軌跡などについて、manabaを用いて定点観測的にログをとることで、学生一人ひとりが日々どう成長しているのか、授業やゼミが学生の考え方・行動・将来にどのような影響を与えているのかについて、準実験的に検証したいと思っています。

提出者数 51名

Q1. やりたいことを書いてください（いくつでも）

フィールドワークでもの作りしたい。途上国に役立つもの

・同じことに興味がある人とグループを作ってそのことについて調べる。・募金活動

・途上国が発展するためにはどうしたら良いか真剣に考える。・留学生などに現地のことをアンケートしたりして細かく調査

ルワンダ等のアフリカの途上国の貧困について調べ、援助するプロジェクトを作りたい。

・調べる課題に対して、学校の人や外部の人にも協力してもらおう。教室以外で活動の幅を広げていく。

・アンケート調査・世界の料理を食べる・子供の貧困について

途上国の経済を回すために売ると良さそうな物を考えてみたい 知識を増やしたい 映画

FD

主体的学び〈3号〉特集：アクティブラーニングとポートフォリオ



出版年月：2015年4月
 編者：主体的学び研究所
 発行所：主体的学び研究所
 価格：1728円
 ページ数：132ページ
 大きさ：A5
 ISBN：9784798912974

アクティブラーニングにおける必須の活用ツール、ポートフォリオ。最近はこちらから得た情報を組織的な教育改革や教育ビッグデータ等の活用を視野にした取組みも散見するようになり、活用の幅が着実に広がっています。

一方でさまざまな授業デザインや準備をしても、各現場に複数の課題や運用上の改善点が複雑かつ継続的に発生し、それらにどう取り組んだらよいのか検討を迫られることも多々あります。

本誌ではポートフォリオ研究と自らも実践者である各位に、こうした共通課題を含めて、導入から実践、運用までたいへんわかりやすく紹介されています。

FD

ラベルワークで進める参画型教育——学び手の発想を活かす
アクティブ・ラーニングの理論・方法・実践

出版年月：2015年5月
 著者：林 義樹
 発行所：ナカニシヤ出版
 価格：3132円
 ページ数：264ページ
 大きさ：A5
 ISBN：9784779509216

学びの場を学び手とともに創る——大学で、看護学校で、高校で、予備校で、市民活動などの現場で——川喜田二郎の薫陶を受けた編者が開発し、数多くの実践者たちが磨き上げた定評あるアクティブ・ラーニングの理論、方法、実践を集約しました。

大学論

大学は社会の希望か——大学改革の実態からその先を読む



出版年月：2015年2月
 著者：江原 武一
 発行所：東信堂
 価格：2160円
 ページ数：192ページ
 大きさ：B6
 ISBN：9784798912851

今日日本の大学改革最大の問題点は何か——改革の総括をふまえ、今後のあるべき改革の方向として、知と真理探究の場である大学が本来保持すべき、社会からの一定の制度的自律性と、そのもとでの各大学自らによる自立的・主体的改革を本書では取り上げています。これまでの文部科学省主導の改革は、変転する社会的要請のもと場当たり的改革に傾斜してはなかったでしょうか。社会と人類に希望をもたらすさらなる改革へ向けた一冊です。

FD

大学教員のためのルーブリック評価入門



出版年月：2014年3月
 著者：スティーブンス、ダネル〈Stevens, Dannelle D.〉/レビ、アントニア訳者：〈Levi, Antonia J.〉/
 佐藤 浩章【監訳】/井上 敏憲/侯野 秀典【訳】
 発行所：玉川大学出版部
 価格：3024円
 ページ数：180ページ
 大きさ：B5
 ISBN：9784472404771

採点時間を節約し、効果的なフィードバックを与え、学生の学習を促す評価ツールである「ルーブリック」。様々な授業でのルーブリックの作り方・使い方から、授業改善・キャリア開発・プログラム評価での活用方法までをわかりやすく説明しています。学生の成績評価を効率的・効果的に行いたいと考えている大学教員、授業をもっと良いものにしたいと考えている大学教員、ルーブリックを作ったりさらに良いものにしたいと考えている大学教員に必読の一冊です。

FD

大学教員のための授業方法とデザイン



出版年月：2010年6月
 編者：佐藤 浩章
 発行所：玉川大学出版部
 価格：2484円
 ページ数：148ページ
 大きさ：A4
 ISBN：9784472404184

大学教員に求められる知識と技術を掲載しています。前半では、大学の教育業務において必要とされる授業のデザイン（学習内容をどのように構成・配置するか）と教育方法（どのように教えるのか）に関する基本的事柄を説明。後半では、初年次の学生を対象として行われることの多いスタディ・スキル教育を担当する際に必要となる基本的事柄について説明されています。資料編では、スタディ・スキルの指導場面で使える資料や授業実践例を掲載しています。

大学論

法学部は甦る！〈上〉初年次教育の改革

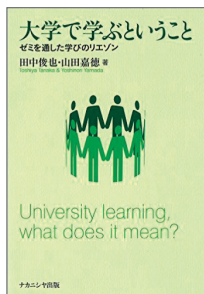


出版年月：2014年11月
 著者：中川 孝博
 発行所：現代人文社
 価格：4104円
 ページ数：375ページ
 大きさ：A5
 ISBN：9784877985936

衰える法学部人気に歯止めをかける実現可能な方策を、配布資料の公開もあわせて紹介されています。

大学論

大学で学ぶということ ——ゼミを通じた学びのリエゾン



出版年月：2015年4月
著者：田中 俊也／山田 嘉徳
発行所：ナカニシヤ出版
価格：1944円
ページ数：155ページ
大きさ：B6
ISBN：9784779509544

半世紀にわたる大学でのゼミ運営を通して、本当の意味での大学での学びとはどういうものかを追求し実践して記録しました。年間の中心的な活動と、ゼミ指導に関わった教員とその学生たちの教えと学びの歴史が紹介されています。

大学論

大学理念と大学改革——ドイツと日本

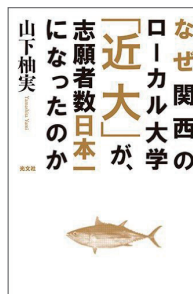


出版年月：2015年3月
著者：金子 勉
発行所：東信堂
価格：4536円
ページ数：368ページ
大きさ：A5
ISBN：9784798912806

ドイツ及び日本の大学理念・制度・行政研究を中心に、精密・正確な歴史的検証に基づく優れた業績を高等教育分野に残し、2011年に急逝された著者の遺著となります。本書は、フルボルト理念の再検討をはじめ、ドイツと日本の大学改革の史的 연구に教員養成問題等を加えた、著者の業績の集大成であり、その研究の今日的意義は、巻末に収録された6人の研究者による「解題」にも鮮明に反映されています。

大学論

なぜ関西のローカル大学「近大」が、 志願者数日本一になったのか



出版年月：2014年11月
著者：山下 柚実
発行所：光文社
価格：1404円
ページ数：253ページ
大きさ：B6
ISBN：9784334978020

「世界初のマグロの完全養殖」と「志願者数日本一」という二つの快挙を成し遂げた裏側には、周到な準備と徹底した改革が隠されていました。ビジネスのヒントがたくさん詰まった著者渾身のノンフィクションです。

大学論

「大学の死」、そして復活

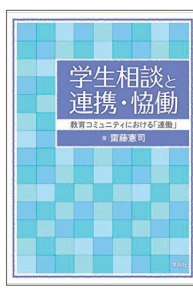


出版年月：2015年6月
著者：絹川 正吉
発行所：東信堂
価格：3024円
ページ数：322ページ
大きさ：A5
ISBN：9784798913025

グローバル化の名の下に、大学は、補助金をポイントとする行政主導型の「受動的改革」に身を委ねているのが実態となっています。全て「仕方のないことだ」と、現状を諦めているではないでしょうか。「大学の死」は大学本来の機能を失っている惨状と言えます。墳末なことに目を奪われ、物事の全体を俯瞰する構想力を喪失することであり、その先に何が結果するか見えなくなることなのです。本書は、全ての大学人が総合的な教養と判断力を回復すべく、「自立的改革」に今こそ立ち上がる意義に気づかせてくれる、著者渾身の書です。

大学論

学生相談と連携・協働 ——教育コミュニティにおける「連動」



出版年月：2015年5月
著者：齋藤 恵司
発行所：学苑社
価格：5400円
ページ数：326ページ
大きさ：A5
ISBN：9784761407728

学生相談活動の最前線。カウンセリング現場からの課題提起と実践的検討、そして新たな概念の提示で構成される本書では、相談活動の方向性を見直す新たな視座として「連動」という概念を提唱し、個別相談が果たす教育コミュニティへの作用と貢献について考察しています。

大学論

質保証時代の高等教育〈上〉経営・政策編



出版年月：2013年7月
著者：山本 眞一
発行所：シヤース教育新社
価格：2484円
ページ数：318ページ
大きさ：B6
ISBN：9784863712300

前著『転換期の高等教育～より良い大学づくりのために』を出版して4年余。この間の流れをすっきりと捉えられるように「文部科学教育通信」の連載原稿を再整理して解説を付しています。上巻にあたる「経営・政策編」は、高等教育の制度や政策そしてこれを支える教職員のあり方が中心です。高等教育が置かれた環境がどのように変化し、いずれの方向に進むものなのかが分かり易く解説されています。

大学論

質保証時代の高等教育〈下〉教育・研究編



出版年月：2013年9月
著者：山本 眞一
発行所：シヤース教育新社
価格：2484円
ページ数：352ページ
大きさ：B6
ISBN：9784863712379

前著『転換期の高等教育～より良い大学づくりのために』を出版して4年余。この間の流れをすっきりと捉えられるように「文部科学教育通信」の連載原稿を再整理して解説を付しました。下巻にあたる「教育・研究編」は、主として大学の中身に関わることを取り扱います。主な事項としては、質保証、学生、国際化、大学院、科学技術——これらを通じて、今の高等教育機関が抱える教育・研究の問題点を明らかにし、教育・研究のこれからを考えます。

大学論

大学教育を問い直す



出版年月：2013年6月
著者：天野 郁夫
発行所：慶応義塾大学出版会
価格：3024円
ページ数：290ページ
大きさ：A5
ISBN：9784766420531

本書は、トロウの発展段階論とクラークの比較高等教育システム論を手掛かりとして戦後日本の教育行政を俯瞰し、これからの大学が備えるべきシステム、価値、および理念を見定めたくうえで、「全入」問題、高大接続関係、秋入学、フاندレイジングなど、具体的かつ喫緊の課題について指針を与えています。すべての大学人にとって、必読の1冊となっています。

大学論

大学生の学びとキャリア



出版年月：2013年4月
編著者：梅崎 修/田澤 実
発行所：法政大学出版局
価格：3024円
ページ数：232ページ
大きさ：A5
ISBN：9784588686061

大学生はどのような学生生活をして、いかにして学び、将来の進路を決めていくのだろうか。また、入学前と卒業後ではどのように意識が変化するか。本書は、筆者らが独自に開発した「キャリア意識の発達に関する効果測定テスト」(CAVT) による統計調査にもとづいて大学生のキャリア発達を実証的に俯瞰し、大学のキャリア教育の役割と実践はいかにあるべきかを検証する。

2015年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会一覧

学修支援・教育開発センターでは、教育改革を推進する一環として、学内のグループ又は個人に対し、教育全般、授業、教材等の研究開発を奨励し、公開に対する支援を行うことを目的とした自己応募研究プロジェクト事業を実施しています。2015年度は9件の研究プロジェクトを採択し、現在プロジェクトを遂行しています。

中間報告会は、それぞれの研究プロジェクトの遂行状況を全学に公開し、その研究成果を共有することを目的としています。日時・会場の詳細については、開催日の約1週間前を目処に「学修支援・教育開発センター News」にて周知案内する予定です。

興味関心ございましたら、是非中間報告会に足をお運びください。

代表者名	プロジェクトテーマ	日 時	場 所	中間報告テーマ
生駒 幸子 (短期大学部)	保育者（保育士・幼稚園教諭）養成における 保育実技指導の検討 —授業間連携による学修成果発表会を通して—	7/4, 7/8 10:30～11:30 13:30～14:30	深草学舎 22号館107教室、 106教室	りゅうたん・こどもシアター (授業間連携による学習成果発表会の 実施を通じた保育実技指導の検討)
植村 渉 (理工学部)	計算機演習における学習進捗度の取得	11/27 16:00-16:30	瀬田学舎 (場所未定)	計算機演習における学習進捗度の取得
大西 俊弘 (理工学部)	数学学習・教育用ソフトウェア「GeoGebra」を 用いた教材開発とテキスト作成	11/16 13:35-16:00	瀬田学舎 2号館343教室	GeoGebraを用いて統計領域の 教材作成
笠井 賢紀 (社会学部)	課題解決型学習に基づく地域協働学習の開発 —コミュニティ・リーダーの育成に向けて—	11/17 15:20-16:50	瀬田学舎 (場所未定)	課題解決型学習に基づく地域協働学習 の開発 —コミュニティ・リーダーの 育成に向けて—
神谷 祐介 (経済学部)	Audience Response Systemを活用した 主体的学習授業の実践とその評価： 実験・行動経済学を用いた検証	12/10 13:15～14:45	深草学舎 (場所未定)	Manaba courseを活用した 「前のめり」授業の実践
小松 知子 (経営学部)	言語教育における評価指標の開発 —「JEP Kyoto」の開発とその検証を通して—	11月25日 15:00～16:30	和顔館 マルチリンガル スタジオ	言語教育における評価指標の開発 —「JEP Kyoto」の開発とその検証を 通して—
寺島 和夫 (経営学部)	講義・演習における学生の主体的学修促進のため の仕組みへのエビデンスベースド・アプローチ	10/13 16:45-18:15 ※16:45-17:15	深草学舎 紫英館6階会議室	manabaの試行的利用について
西岡 久充 (経営学部)	ICT支援による効果的な教育システムに関する 基礎的研究	10/13 16:45-18:00 ※17:15-17:45	深草学舎 紫英館6階会議室	manaba courseを利用した授業運営 の実践
吉川 悟 (文学部)	講義中の私語抑制ストラテジー調査	12/11 12:30～13:00	大宮学舎 清風館3階 合同研究室301	講義中の私語抑制ストラテジー調査

2016年度自己応募研究プロジェクト申請受付中

現在、2016年度自己応募研究プロジェクトの募集をしています。応募資格、条件、対象内容を確認の上、奮ってご応募ください。

応募締切：2015年11月6日(金)

【応募資格】

- 研究代表者は本学専任（特任含む）教職員（共同研究者は専任・非常勤講師を問わない。）
- 本学における教育全般、授業、教材等の研究開発（FD）を行おうとするグループまたは個人。

【応募条件】

- 開発成果に汎用性のあること。
- 下記内容の範囲内であること。
- 申請額は30万円を上限とする。
※学生の負担軽減を目的とした費用については対象外とします。

【対象内容】

- (1) 学士課程教育に関する研究
- (2) 教材研究に関するもの —教材作成・教材開発・テキスト作成等—
- (3) 教育手法の開発・研究に関するもの —実験的授業・授業法改善等—
※但し、各学部の教学促進費、教学改革推進費及び教育学部の「教職FDプロジェクト」、「教養教育・学部共通コースFD研究開発プロジェクト」として別途予算措置がなされているものは、本事業の対象とはしません。

☆申請書類は学修支援・教育開発センターにて配付しています。また、学修支援・教育開発センター HP (http://fd.ryukoku.ac.jp/biz_content/project1/self/recruit/index.html) からのダウンロードも可能です。

※原則として応募できるプロジェクトは1プロジェクトとします。